令和　４年　３月２２日

多賀城市議会議長　　殿

会派等名　自由民主党多賀城市議団
代表者名　会派長　森　長一郎　㊞

調査研究報告書

このことについて、下記のとおり実施したので、概要を報告します。

記

1　報告者（参加者）

(1)　代表　森　長一郎　㊞　(4)　吉田　瑞生　㊞
(2)　米澤　まき子　㊞　(5)　佐藤　雅博　㊞
(3)　鈴木　新津男　㊞　(6)　雨森　修一　㊞

2　調査研究の概要

□調査期間：令和　４年　３月１０日（木　）～令和　４年　３月１１日（金）

□調査目的：震災の記憶と教訓を伝えつづけるために震災遺構を視察

□調査手法：視察調査

□行程又は日程：添付行程表のとおり

□調査先及び調査事項

調査日時	調　査　先	調査事項及び現地視察の有無
１０日（木） ～	・みやぎ東日本大震災津波伝承館 ・気仙沼市東日本大震災伝承館	① 震災の風化防止 ② 防災意識の向上 ③ 語り部による解説
１１日（金） １０：３０～	・道の駅大谷海岸	① 駐車場より復興状況視察 ② 気仙沼向洋高校生製造の缶詰解説

□調査資料：添付調査先作成資料のとおり

3　調査の概要

別紙のとおり

4　所感（今後の市政に資する点）

別紙のとおり

議会事務局 一3.22 収受

宮城県多賀城市議会　会派行政視察等　行程表

＜　研修、調査研究、要請・陳情　用　＞

会 派 名「　　自由民主党多賀城市議団　　」

■日　　程：令和　　4年　3月10日（木）～　3月11日（金）

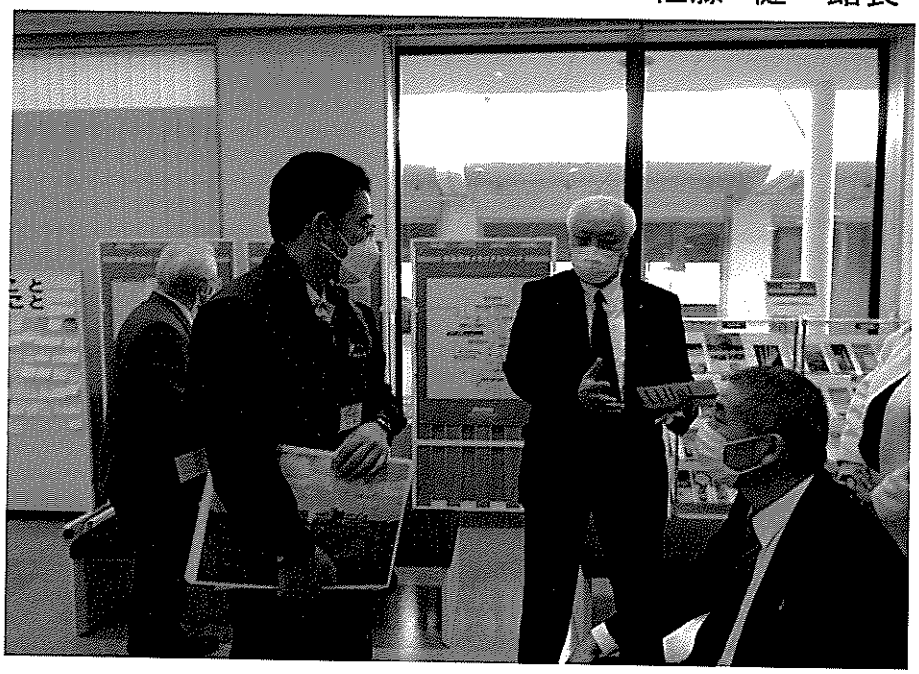
(変更後)

日　程	行　　程
＜1日目＞ 3月10日 （木）	多賀城市役所（自家用車）→多賀城IC三陸自動車道→ 9：00 みやぎ東日本大震災津波伝承館→三陸道→ 10：00　～12：00 気仙沼市東日本大震災伝承館→ホテル 14：00～16：00　　17：00
	■宿泊　　サンマリン気仙沼　ホテル　観洋 気仙沼市港町4-19　　TEL0226-24-1200
	■調査事項等 1．　津波伝承館等各施設の現地視察 2．　震災復旧後の状況現地視察
＜2日目＞ 3月11日 （金）	ホテル→大島（車窓より）→道の駅大谷海岸→三陸道→多賀城IC 9：00　　10：00～10：30 →市役所 12：00
	■宿泊 ・
	■調査事項等 1．震災復旧後の状況現地・車窓より 2・気仙沼向洋高校製造のサンマ缶詰解説
3日目＞ 月　　日 （　）	
	■調査事項等 1． 2．

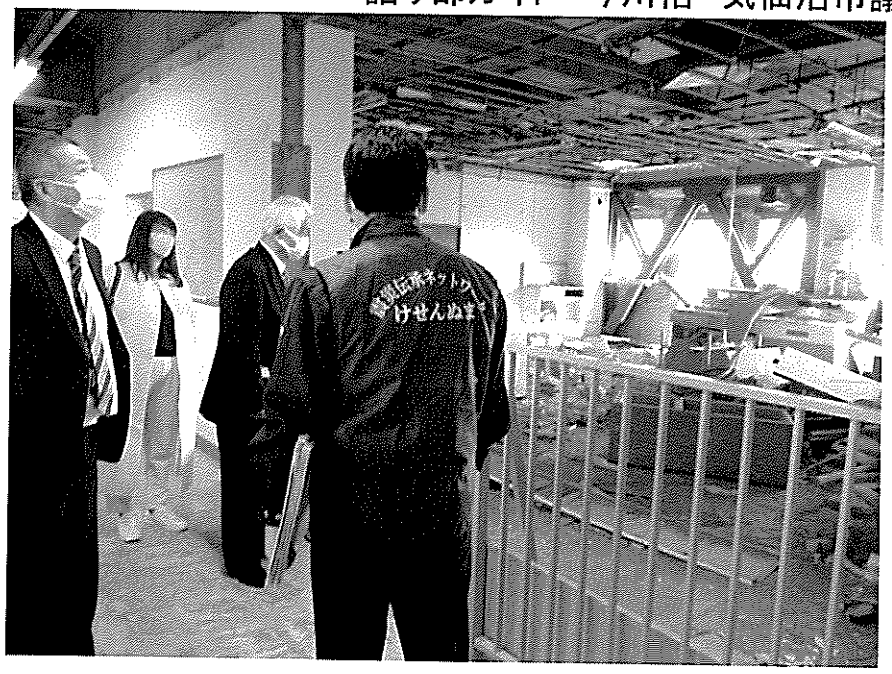
みやぎ東日本大震災津波伝承館

気仙沼市東日本大震災伝承館

佐藤　健一館長



語り部ガイド　今川悟　気仙沼市議



気仙沼向洋高校生製造の缶詰　向洋缶

令和４年３月１０日

１０時～

石巻市「みやぎ東日本大震災津波伝承館」・「石巻南浜町津波復興祈念公園」

１４時～

気仙沼市「東日本大震災遺構・伝承館」

概要：東日本大震災から１１日で１１年目を迎えるにあたり、「震災遺構の役割」として注目された石巻市・気仙沼市を防災・減災の学び直しのための研修。

●石巻市の場合：１４時４６分に発生した東日本大震災による犠牲者は、約４千人が亡くなられた国内最大の被災市町村で、その中でも南浜地区は津波の襲来とその後の火災の延焼で５００人以上の方が亡くなり、その南浜地区約３８．８ｈａを追悼する場所として、また、復興への強い意志を国内外に発信することを目的に整備されました。
祈念公園内に設置された伝承館については、建物の一番高い北側の屋根の高さが６．９ｍで、この地を襲った津波が停滞した時の高さを体験できるようになっており、同じ悲しみと混乱を繰り返さないためにも記憶の教訓を後世に伝え継ぐことが責務をとらえ、その責務を確かめ合い、未来への誓いを新たにするための場として整備されました。
リアルな津波の映像や被災者の証言等や「津波から命をまもるために逃げるしかない」ことを訴える映像、語り部活動・パネル展示を用いて伝えるとして、整備されていました。　＊語り部　行政相談委員（元市議会議員）堀川　禎則氏

●気仙沼市の場合：気仙沼市では、遺構候補として注目されて巻き網漁船「第１８共徳丸」が解体されたあとに気仙沼向洋高校の被災校舎が決定した。ここで、津波の脅威をさらに伝えるため伝承施設の併設の計画がされた。
震災伝承の意義を「追悼と鎮魂。犠牲を繰り返さない誓い」「災害に強いまちづくり。将来後世への伝承」「沿岸部に暮らす全国・全世界の人々への伝え」とし、その方法と方策の整理がされた。

施設内は、４０人収容のシアター、研修室、イベントスペース、トイレ、展示コーナーなどの配置に加え、校内の見学コースは廊下からで３階に漂着した車のまわりには見学用のデッキ、建物の劣化を防ぐためコンクリートには保護塗装を施し、屋上には雨水対策の防水シートが張られています。
将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として活用し、気仙沼市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的としています。＊語り部：気仙沼市議解議員今川　悟氏、館長佐藤健一氏（主として津波な関する説明）

●所見

震災遺構の役割は「２度と同じ悲劇を繰り返さないこと」である。そのために津波被災地は何をすべきか。保存施設をどのように活用するのか。長期的なビジョンと共に覚悟が求められている。
特に、気仙沼市の階上地区は４８００人の住民のうち２００人以上が犠牲となり、震災の死亡率が一番高かった。また、
１８９６年の明治三陸津波でも大きな被害を受けており、地域での避難訓練も積極的で、特に今回避難場所であった階上中学校は震災前から地域の協力を受けて防災教育に力を入れ、全国的にも高い評価を得ていた。残念ながら、階上中学校の生徒３人が犠牲となりました。
東日本大震災から１１年目の宮城県石巻市・気仙沼市が復興した姿を今後どう発信していくのか。さらに、震災遺構の役割をしっかりとつなぎながら「あの日」を改めて思い起こす場であること、海と生きなければならない沿岸地域であるゆえに、伝承施設の記憶の継承の重みを伝えてほしいそんな思いでした。

既に遺構に指定された石巻市大川小学校と４月３日に旧門脇小学校が震災遺構として保存が決定されています。震災遺構を次の世代に学校施設の公開が進む中、各地の学校が災害への理解を深めている。本年度もコロナ禍の中であったが、修学旅行で訪れる学校があった。
２０２２年３月１１日は快晴、海もキラキラと眩しい春の陽気となりました。
気仙沼震災遺構・伝承館での見学最後に
震災直後の避難所の体育館で行われた卒業式の答辞を読み上げる生徒の様子が映し出されていました。あまりの感動に「涙、涙」のちにこの答辞は教育白書に紹介されたほどでした。
「答辞」を読み上げた生徒が自ら途中で書き直ししたと伺いました。

生徒の「答辞」は気仙沼市民の思いを代弁したかのようでした。

２か所の語り部の方々とのご縁がありました。１１年目でやっと涙なしで伝えることが出来るようになりました。の言葉に思わず涙腺がゆるんでいきました。それを乗り越えようとしてきた方々の言葉がとても重かったです。

生かされた私たちの指名は、「語り継ぐこと」「津波から逃げる事」決して忘れてはいけない・・・あの日を

多くを学んだ研修でした。

気仙沼市立階上中学校の卒業式における卒業生代表梶原裕太君の答辞

卒業生代表の言葉

本日は未曽有の大震災の傷も癒えないさなか，私たちのために卒業式を挙行していただき，ありがとうございます。

ちょうど十日前の三月十二日。春を思わせる暖かな日でした。

私たちは，そのキラキラ光る日差しの中を，希望に胸を膨らませ，通い慣れたこの学舎を，五十七名揃って巣立つはずでした。

前日の十一日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き，十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ，内外から高く評価され，十分な訓練もしていた私たちでした。しかし，自然の猛威の前には，人間の力はあまりにも無力で，私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには，むごすぎるものでした。つらくて，悔しくてたまりません。

時計の針は十四時四十六分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として，顔を上げ，常に思いやりの心を持ち，強く，正しく，たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし，苦境にあっても，天を恨まず，運命に耐え，助け合って生きていくことが，これからの私たちの使命です。

私たちは今，それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。どこにいても，何をしていようとも，この地で，仲間と共有した時を忘れず，宝物として生きていきます。

後輩の皆さん，階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が，いかに貴重なものかを考え，いとおしんで過ごしてください。先生方，親身のご指導，ありがとうございました。先生方が，いかに私たちを思ってくださっていたか，今になってよく分かります。地域の皆さん，これまで様々なご支援をいただき，ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

お父さん，お母さん，家族の皆さん，これから私たちが歩んでいく姿を見守っていてください。必ず，よき社会人になります。

私は，この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に，本当に，本当に，ありがとうございました。

平成二十三年三月二十二日

第六十四回卒業生代表

梶原　裕太